

製品名: BubR1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07698**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	BUB1B BUB1B; BUBR1; MAD3L; SSK1; Mitotic checkpoint serine/threonine-protein kinase BUB1
別名	beta; MAD3/BUB1-related protein kinase; hBUBR1; Mitotic checkpoint kinase MAD3L; Protein SSK1
遺伝子 ID	701.0
SwissProt ID	O60566
免疫原	抗血清はヒト BUB1B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 341-390

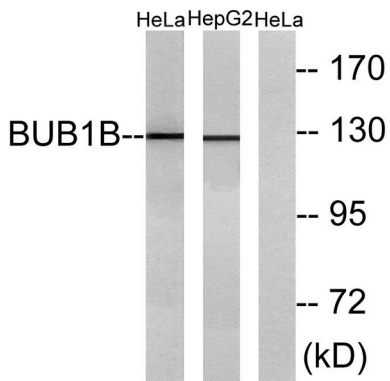
背景

この遺伝子は、スピンドルチェックポイント機能に関与するキナーゼをコードしています。このタンパク質はキネトコアに局在し、後期促進複合体/サイクロソーム (APC/C) の阻害に関与し、後期の開始を遅らせ、適切な染色体分離を確保します。スピンドルチェックポイント機能の障害は、多くの種類の癌で発見されています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。疾患: BUB1B の欠陥は腫瘍形成と関連しています。疾患: BUB1B の欠陥は、モザイク多様異数性症候群 (MVA) [MIM:257300]の原因です。MVA は、複数の異なる染色体および組織が関与するモザイク異数性、主にトリソミーおよびモノソミーを特徴とする重度の常染色体劣性発達障害です。異数性細胞の割合はさまざまですが、通常は 25%以上で、正常な個人よりも大幅に多くなります。罹患した個人は通常、重度の子宮内発育遅延および小頭症を呈します。眼の異常、軽度の異形症、さまざまな発達遅延、および広範囲の先天異常および医学的状態も発生する可能性があります。悪性腫瘍のリスクは高く、横紋筋肉腫、ウィルムス腫瘍、および白血病がいくつかの症例で報告されています。MVA は、BUB1B 遺伝子の両対立遺伝子変異によって引き起こされます。疾患: BUB1B の欠陥は、早期染色体分離形質 (PCS) の原因です[MIM: 176430]。PCS は、識別可能なセントロメアを持つ、分離した広がった染色分体で構成され、中期のすべてまたはほとんどの染色体に関与します。正常な人の約 40% から採取した培養リンパ球では、中期染色体の最大 2% に PCS が見られます。PCS が 5% 以上の細胞に存在する場合、ヘテロ接合性 PCS 形質として知られ、明らかな表現型への影響はありませんが、生殖能力の低下が報告されています。遺伝形式は常染色体優性です。ドメイン:CD1 ドメインは、動原体の局在と BUB3 への結合を指示します。ドメイン:D ボックスは、有糸分裂から間期への移行中に、ユビキチン依存性タンパク質分解によってタンパク質を急速に分解するように標的とします。酵素調節:CENPE によって刺激されるキナーゼ活性。機能:有糸分裂チェックポイントの必須構成要素。正常な有糸分裂の進行に必要です。有糸分裂チェックポイントは、すべての染色体が適切に有糸分裂紡錘体に付着するまで、有糸分裂後期を遅らせます。そのチェックポイント機能の 1 つは、キナーゼ活性とは無関係に、CDC20 の APC/C への結合を阻害することにより、有糸分裂後期促進複合体/サイクロソーム (APC/C) の活性を阻害することです。もう 1 つは、キネトコア モーター CENPE に依存するキネトコアの活動を監視することです。また、有糸分裂停止から異常に脱出した倍数体細胞でアポトーシスを誘発することにも関係しています。腫瘍抑制に役割を果たす可能性があります。誘導:有糸分裂中に誘導されます。PTM:in vitro で自己リン酸化されます。分子内自己リン酸化は CENPE によって刺激されます。有糸分裂中にリン酸化され、有糸分裂停止細胞では過剰リン酸化されます。PTM:細胞周期特異的な方法でカスパーゼ 3 によってタンパク質分解的に切断されます。この切断は細胞周期遅延の持続に関与している可能性がある。カスパーゼ 3 による切断は、有糸分裂チェックポイントの解除と関連している。主要な切断部位は Asp-610 である。PTM: ユビキチン化 (おそらく) されている。プロテアソームによって分解される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。BUB1 サブファミリー。類似性: 1 つの CD1 ドメインを含む。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 間期細胞では細胞質内。前期初期には動原体と関連する。サブユニット: CENPE、CENPF、マイトシン、BUB3 と相互作用する。BUB3、CDC20、BUB1B を含む複合体の一部。後期促進複合体/サイクロソーム (APC/C) と相互作用する。組織特異性: 胸腺、次いで脾臓で高発現する。有糸分裂指数の高い組織で優先的に発現する。

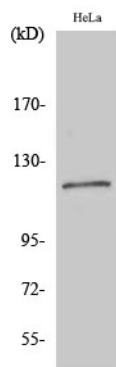
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

画像データ



BUB1B 抗体を用いた、H₂O₂ 100 μ M 30 分処理した HeLa 細胞および HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



BubR1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析